

目次

- 「ASA Conference 2004」に参加して
 - ・理事会報告……………1
- 2003年洋書輸入統計（前編）……………2
- 海外ニュース……………5
- 新・パソコン外論考（其45）……………6
- 出版文化史逍遙（88） 洋書の歴史雑記帳（XLIII） ……7

『ASA Conference 2004』に参加して

ユサコ株式会社 代表取締役会長 山川 隆司

ASA (Association of Subscription Agents and Intermediaries) は英国に本部を置く、世界の定期刊行物取次業者 (Subscription Agents) の団体で、世界の主要な取次店が加盟しています。日本では丸善、ユサコ、紀伊国屋、サンメディアがメンバーとなっています。

その年次総会が、今年は2月23日、24日の両日、ロンドンの Royal College of Nursing で開催されました。今回は世界各国から講師と参加者を募った結果、定期刊行物取次業者をはじめ、出版社、そして図書館から多数のメンバーが集い、活発な情報交換が行なわれました。

今年の主題は『The Money Trail : Cost and Value in Journal Information Provision』です。標題が示すように出版のコスト、サービスの提供方法、出版社の吸収合併、売却の傾向など幅広い分野での発表がなされました。

ここでは各々のペーパーについてのコメントは割愛させていただきますが、下記にてプログラムと各ペーパーの用紙をご覧になれます。是非ご覧ください。

<http://www.subscription-agents.org/conference/200402/index.html>

（プログラムの各々の演題末尾にある「here」をクリックすると Powerpoint 起動します）

これらの内容を取り入れ、我々取次業者向けにまとめたペーパーの発表会を、4月初旬 ASA の事務局長である Rollo Turner 氏を向かえて JAIP 会員向けにセミナーを開催します。このセミナーの詳細は、JAIP 広報委員会を通じ後日会員の皆様にご案内いたします。

過日開催されました、アマゾンドットコムとのセミナーに次ぎ、定期刊行物を扱っている取り次業者にとっては有益なセミナーになるものと思います。多数の皆様の参加をお待ちしております。

※協会ウェブサイト「掲示板」より転載しました。

理事会報告

2月26日（木）

1. 以下の委員会報告を了承した。

(1) 広報委員会：

- ・2月27日のセミナーには会員外6社を含めて23社50名が参加する見込みである。

(2) 事業委員会：

- ・東京国際ブックフェア洋書バーゲンコーナーには現在9社の出店申し込みが来ている。3月9日に説明会を開催する。

(3) 文化厚生委員会：

- ・3月の同好会活動としてゴルフコンペ及びテニス合宿を計画している。

2. 2004年度定時総会会場を都内ホテルに変更する。

3. 2004年度予算：

- ・各担当委員会より提出された活動予算について審議し、一部見直しを要請した。
- ・一般会計全般の予算原案作成を理事長代理、副理事長及び総務委員長による予算編成会議（仮称）に指示した。

4. 「東京国際」ブックフェア実行委員会に国際交流基金が加わることを承認した。

5. 今秋開催の“神保町本まつり”に会員出店のためのスペース提供を同まつり実行委員会に申し込んだ旨の事務局長報告を了承した。

2003年(平成15年)1月～12月の洋書輸入統計(前編)

荒 木 亮 一

財務省より「日本貿易統計：2003年(平成15年)1月～12月」(Provisional)が発表されたので、書籍、新聞、雑誌、絵画他(貿易統計第49類)ならびに関連商品の通関額を抽出し、輸入、輸出別に、例年通りの幾つかの表にまとめ、数値のみをベースにして若干の考察を加えた。これらの情報が業界の「成長の芽」を伸ばすためのヒントを提供することになれば幸いである。

2001年より続いた円安が2003年1月に入って円高に移り、税関長公示レート推移をみると、米ドル/円は年平均が7.3%の円高を示している。貿易データによると米ドル決済率が高いので(70%以上)、2003年度の書籍・雑誌の輸入量は安定、或いは若干伸びたと考えても良いのではないだろうか。雑誌についてみると、前年比で5.4%の伸びではある。しかし、2002年は前年比が二桁のマイナスと非常に低調な年であったので、前々年(2001年)の実績と比較すると6%ほど下回っている。海外の出版界においてインターネット事業が好調のようで、その影響が大きいことは間違いない。

1) 主要品目の輸入通関額について：

表1-a 2002/2003年の輸入通関額(単位 百万円)

分類	品目	02年1月～12月 輸入価格	03年1月～12月 輸入価格	前年比	構成比
書籍 および それに 類する もの	単一シートのもの	132	212	160.6%	0.4%
	辞典および事典	333	299	89.8%	0.5%
	その他のもの(書籍)	37,636	36,673	97.4%	62.2%
	幼児用絵本	3,142	3,401	108.2%	5.8%
	小計(1)	41,243	40,585	98.4%	68.9%
	楽譜	722	756	104.7%	1.3%
	地図/海図	692	819	118.4%	1.4%
	小計(2)	1,414	1,575	111.4%	2.7%
新聞・ 雑誌そ の他の 定期刊 行物	一週に4回以上 発行するもの	66	64	97.0%	0.1%
	雑誌その他の定期刊行物	15,826	16,692	105.5%	28.3%
	小計(3)	15,892	16,756	105.4%	28.4%
合計(1)+(3)		57,135	57,341	100.4%	97.3%
合計(1)+(2)+(3)		58,549	58,916	100.6%	100.0%

＜考察＞洋書マーケットは？

(1) 書籍についてみると、前年比2.6%の減少である。総冊数は発表されていないので、総重量の増加8.4%から推測すると、このマイナスは円高で十分に相殺されている、と言って間違いない。更に為替の変動の部で検討することにする。「幼児用の絵本及び習画本」の構成比は8.4%で、絶対値は小さいが過去数年間に亘り順調に伸び続けている。輸入額が前年比で8.2%増、また総冊数も前年比で約10.0%増である。同様に円高を考慮すると、かなり有望な品目である。「辞典および事典」は、1996年の742百万円をピークとして輸入額が減り始めた。今後も低調な状況が続きそうであり、大作か重要な改訂版に期待がかかる昨今であろう。

(2) 雑誌・新聞については、輸入額上で10年前(1994年)とほぼイーヴンの2003年であった。インターネット販売がますます好調とのことで、海外の某社のオンライン・サービスは、最近年の前年比が40%の伸び、収入の60%を占めたという。しかし、表が示すとおり、円高にも拘わらず輸入額は前年比5.4%アップである。一方、総冊数は8.0%ダウン、原価/冊が14%アップ、これはとりもなおさず、原価の上昇が講読誌の数量を抑制している結果である、と考えられる。一例としてオランダからの輸入をみると、輸入額は前年比で20.7%減、冊数では41.8%減である。米国の大学の例にもれず、日本の大学、企業関係の購読者筋にとってもジャーナルの高額化には対応に苦慮されているのではないだろうか。書店関係者においておや、であろう。

「実行関税率表」の49類とは、「印刷した書籍、新聞、絵画、その他の印刷物並びに手書き文書、タイプ文書、設計図及び図案」である。

I. 書籍およびそれに類するもの、とは：

「印刷した書籍、小冊子、リーフレットその他これらに類する印刷物（単一シートのものであるかないかを問わない。）」（1）単一シートのもの：単一シートのもの（折り畳んであるかないかを問わない）及びその他のもの（2）辞典及び事典（シリーズの形式で発行するものを含む。）（3）その他のもの（書籍類）

II. 新聞・雑誌その他の定期刊行物とは：

（1）1週に4回以上発行するもの（2）その他のもの（挿絵を有するか有しないか又は広告を含んでいるかないかを問わない。）

III. 「幼児用の絵本及び習画本」（絵が主体で、文章が副次的な幼児用の本をいう。）

IV. 「楽譜」（印刷したもの及び手書きのものに限るものとし、製本してあるかないか又は挿絵を有するか有しないかを問わない。）

V. 「地図・海図その他これらに類する図」（製本したもの、壁掛け用のもの、地形図及び地球儀・天球儀その他これらに類するものを含むものとし、印刷したものに限る。）

VI. その他の項：「設計図及び図案」、「郵便切手」、「葉書」、「デカルコマニア」、「カレンダー」、「その他の印刷物」に分類される。

◎含まれるもの、含まれないもの、を確認しよう。

1 49類は、次の物品を含まない。

（a）透明なベース上の写真のネガ及びポジ（b）浮出し地図、浮出し設計図及び浮出し地球儀（印刷してあるかないかを問わない。）（c）遊技用カードその他の物品（d）銅版画、木版画、石版画その他の版画、郵便切手、収入印紙、郵便料金納付の印影、初日カバー、切手付き書簡類その他これらに類する物品及び製作後100年を超えたことうその他の物品

2 この類において印刷したものには、複写機により複写したもの、自動データ処理機械により打ち出したもの、型押しをしたもの、写真に撮ったもの、感光複写をしたもの、感熱複写をしたもの及びタイプしたものを含む。

3 新聞・雑誌その他の定期刊行物を紙以外の物品により製本したもの及び新聞・雑誌その他の定期刊行物の二号以上を単一のカバーによりセットしたものは、単一シートのものに属する。

4 第49.01項には、次の物品を含む。（a）美術品、図案等を複製した印刷物を集めたもの（内容に関連する文章を伴うもので、ページを入れて書籍の作成に適するようにしたものに限る。）（b）書籍に補足として付属する絵画（書籍とともに提示するものに限る。）

備考：書籍、雑誌（Journal）の通関時期／規準は、従来通りであるとのことである。

Airmail/Surface mail で輸入される書籍は、原則として、入荷月の翌月15日までに通関の届出が行われるので、統計上は1ヶ月遅れ。Aircargo/SALやDHLのような業者経由の輸入は、到着の都度通関の手続きを経るので、統計上にほとんど遅れはない。

年間講読の雑誌は、購読者に直送されるものはその殆どが“Airmail”で送られるが、最終号が購読者に到着したと認められる時点において通関の届出がされる。そのために統計上は初号入荷時より約1年遅れとなる。Aircargo扱いのものは書籍と同様、到着の都度通関の手続きを経るので遅れはない。

関税の規準は“CIF”または“C&F”である。また、輸入原価が20万円以下（1社／月）の小額貨物については、通関手続きが免除されているので、統計には含まれていない。

表1-b 品目別輸入量（総重量[KG]と総冊数）

品目	輸入された「1KG当たりの平均冊数」					
	02総冊数	02総重量KG	平均冊数 ／KG	03総重量	03総冊数	平均冊数 ／KG
（書籍）						
単一シートのもの	～	112,695	～	～	175,403	
辞典および事典	286,707	241,389	1.19	412,306	262,752	1.57
書籍など	～	11,628,204	～	～	12,607,342	
幼児用絵本	11,694,189	2,472,755	4.73	12,861,429	2,467,159	5.21
小計1(辞典+絵本)	11,980,896	2,714,144	4.41	13,273,735	2,729,911	4.86
（新聞・雑誌）						
一週に4回以上発行するもの	471,794	47,601	9.91	500,903	41,963	11.94
新聞・雑誌その他の定期刊行物	24,285,178	4,626,648	5.25	22,451,128	4,944,534	4.54
小計2	24,756,972	4,674,249	5.30	22,952,031	4,986,497	4.60
合計(1+2)	36,737,868	7,388,393	4.97	36,225,766	7,716,408	4.69

＜参考＞「単一シートのもの」の前年比が輸入額の60.6%増、総重量55.6%増である。「辞典および事典」は、輸入額が10.2%減、総冊数43.8%増、総重量8.9%増。「書籍など」は、輸入額2.6%減、総重量8.4%増。「幼児用の絵本」は、輸入額8.2%増、総冊数10.0%増、総重量0.2%減である。「一週に4回以上発行するもの」は、輸入量3.0%減、総冊数6.2%増、総重量11.8%減。「新聞・雑誌その他の定期刊行物」は、輸入額5.5%増、総冊数7.6%減、総重量6.9%増。これらの数字からいろいろ必要、且つ、興味ある情報を読み取って頂きたい。

(注：上記の輸入額増減率には、円高に推移した円／米ドルの変動率、約7%は計算されていない)

表1-c 品目別輸入量（総冊数と平均単価）

品目	輸入された「総冊数と平均単価」					
(書籍)	'02総冊数	'03総冊数	前年比	'02年 平均単価	'03年 平均単価	前年比
単一シートのもの	～	～	～	～	～	～
辞典および事典	286,707	412,306	144%	¥1,161	¥725	62%
書籍など	～	～	～	～	～	～
幼児用絵本	11,694,189	12,861,429	110%	¥269	¥264	98%
小計	11,980,896	13,273,735	111%	¥290	¥279	96%
(新聞・雑誌)						
一週に4回以上 発行するもの	471,794	500,903	106%	¥140	¥128	91%
新聞・雑誌その 他の定期刊行物	24,285,178	22,451,128	92%	¥652	¥743	114%
小計	24,756,972	22,952,031	93%	¥642	¥730	114%
合計	36,737,868	36,226,766	99%	¥527	¥565	107%

＜参考＞「辞典及び事典」では前年の高額商品に代わって、求め易い辞書などの輸入が多かったのではないかと推定できる。「幼児用絵本」はほぼ例年通りである。「一週に4回以上発行するもの」は単価の下降が見られる。「新聞・雑誌その他の定期刊行物」については、ジャーナルの価格上昇、ページ数の増加などを物語っている。マーケットにおいて、原価上昇と円高に対してどのような対応がなされたのであろうか。

2. 最近10年間の推移

表2 最近10年間の輸入通関額一覧表（単位 百万円）

暦年	書籍・辞書・絵本			雑誌・新聞			計		
	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数
1994	23,924	99%	100	16,023	101%	100	39,947	100%	100
1995	24,520	102%	102	17,418	109%	109	41,938	105%	105
1996	29,399	120%	123	19,844	114%	124	49,243	117%	123
1997	35,453	121%	148	18,220	92%	114	53,673	109%	134
1998	35,253	99%	147	19,056	105%	119	54,309	101%	136
1999	35,151	100%	147	18,029	95%	113	53,180	98%	133
2000	33,190	94%	139	16,542	92%	103	49,732	94%	124
2001	39,244	118%	164	19,125	116%	119	58,369	117%	146
2002	41,243	105%	172	15,892	83%	99	57,135	98%	143
2003	40,585	98%	170	16,756	105%	105	57,341	100%	144

注：「指数」は、例年通りレポートの最初の年を“100”とした。「数値」は〔書籍／辞典／幼児用絵本〕と〔新聞・雑誌〕のみの合計である。

＜考察＞原価の平均上昇率を「4%/年」と仮定すると、2003年は、10年前の1994年から、書籍はプラス19.2%、雑誌はマイナス26.5%、合計額ではプラス0.85%の実質成長である（為替の変動は考慮せず）。数値的には書籍の輸入は順調に伸びているが、一方、雑誌・新聞の輸入は後退している。重複になるが、オンライン・サービスへの移行の影響であろう。

3. 主要10ヶ国からの2003年輸入通関額

表3-a 主要10ヶ国からの輸入通関額と前年比・構成比（単位 百万円）

国名	書籍・辞書・絵本			雑誌・新聞			計		
	輸入額	前年比	構成比	輸入額	前年比	構成比	輸入額	前年比	構成比
米	13,124	88%	32%	9,114	95%	54%	22,238	91%	39%
英	7,330	95%	18%	4,248	156%	25%	11,578	111%	20%
シンガポール	5,334	84%	13%	331	113%	2%	5,665	85%	10%
香港	4,466	186%	11%	221	136%	1%	4,687	168%	8%
中国	3,010	103%	7%	169	43%	1%	3,179	103%	6%
独	2,091	104%	5%	577	132%	3%	2,668	109%	5%
オランダ	1,101	95%	3%	816	79%	5%	1,917	87%	3%
仏	1,049	118%	3%	221	111%	1%	1,270	117%	2%
韓国	429	88%	1%	210	100%	1%	639	91%	1%
タイ	595	260%	1%	36	88%	0%	631	234%	1%
小計	38,529	99%	95%	15,943	105%	95%	54,472	100%	95%
その他 の国	2,056	97%	5%	813	105%	5%	2,869	136%	5%
計	40,585	98%	100%	16,756	105%	100%	57,341	100%	100%

表3-b 主要輸入元一覧表 (単位 1,000百万円)

品名	USA	UK	EURO圏	東アジア	東南アジア	その他の国	合計
書籍	13.1	7.3	5.1	8.2	6.2	0.7	40.6
雑誌	9.1	4.2	1.9	0.6	0.3	0.7	16.8
合計	22.2	11.5	7.0	8.8	6.5	1.3	57.3
構成比	39%	20%	12%	15%	11%	2%	100%

註1：“EURO圏”は14カ国を含む。

註2：“東アジア”は中国、香港、台湾、韓国、北朝鮮を、“東南アジア”は10カ国を含む。

＜考察＞特記すべきはアジア地域からの輸入の伸びが第一である。タイが十傑の仲間入りを果たした。「中国＋香港＋台湾」の合計は前年比

30%増、東南アジア圏（シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナム、フィリピン、カンボディア、ミャンマー、マカオ）からの輸入も増えている。欧米大手出版社の生産政策や流通経路としての役割が大きいと考えられるが、内容はさておいて、日本経済の回復にも良い影響をもたらしてくれるのではないかと、という期待を膨らませる向きも多いのではないだろうか。

（後編に続く）



◆◆ Reed Elsevier 2003年度決算

Reed Elsevierは2003年12月末決算の報告で、総売上は49億2千5百万ポンド、利益は10億1千万ポンドであったと発表した。

このうちScience and Medical Div.の販売額は7億8千9百万ポンド、Health Science Div.の販売額は5億9千2百万ポンドで、合計13億8千100万ポンドとなり、利益は4億6千7百万ポンドであった。成長の要因はジャーナルの継続率が高かったこと、最近発売を始めたバックファイルやサブジェクト別のコレクションを含むオンラインの販売が伸びている為とのこと。ScienceDirectのデータベースは500万以上の研究論文が収載されており、利用は前年に比べほぼ2倍の1億7,500万件のダウンロードがあった。更に、これまでは調査の対象外であった論文についても魅力的な価格で入手が可能であり、個人のみならずコンソーシアを通じても予約者が増えつつあるとのこと。Electronic onlyの購読者は55%になり金額的にはジャーナルの購読料の23%を占めるようになったそうです。

Reed Elsevier Group全体の売上の中で、Science &

Medical Div.とHealth Science Div.の売上は28%を占めており、Business関係の27%を上回っている。売上の57%は北米からのもので、英国からは17%である。なお、Reed Elsevierは2003年度において2億2千6百万ポンドを買収費用に使ったとのことである。

Scholarly Communications Report, Feb. 2004 issue から抜粋

Suleski, Ronald 博士、

◆◆ ハーバード大学フェアバンクセンター 副所長に就任

1980年から1997年まで日本に滞在され、パーガモンプレスやハーパーコリンズの日本代表を務められたSuleski, Ronald博士が、今般ハーバード大学フェアバンクセンター副所長に就任されました。フェアバンクセンターは東アジア研究で世界的に有名な研究機関で、氏の中国・韓国・日本の文化研究はつとに有名です。私たちの業界においても洋書の普及、特に理工学・医学の分野での活動を通じてお世話になった方も多いかと思います。

フェアバンクセンター:

<http://www.fas.harvard.edu/fairbank/>

E-mail: fairbank@fas.harvard.edu

＜ニュース提供：ユサコ株式会社＞

※協会ウェブサイト「掲示板」より掲載しました。

新・パソコン外論考 (其45)

宇田川一彦

◆ My one and only love/私のただひとつの恋

■子路行以告、夫子憮然曰、鳥獸不可與同羣、吾非斯人之徒與而誰與、天下有道、丘不與易也、

Tzu-lu went and reported what was said to Confucius. The Master was lost in thought for a while and said, "One cannot associate with birds and beasts. Am I not a member of this human race? Who, then, is there for me to associate with? While the Way is to be found in the Empire, I will not change places with him."

(論語／微子篇・Confucius/The Analects／Book XVIII)

【外注：前号では、畑をならんで耕していた長沮は、孔子だとわかると、渡船場なんて知っているはずだ、と答えました。そして、本章では、子路に対して、桀溺は、「滔々と流れる洪水で、世の中が混乱しているときに、悪人を避けて善人を選ぶような師匠と一緒にいないで、世の中、時代、人間からも逃げる人と一緒にいた方がいいのではないかと語った。この言を、孔子に告げるところから、今回は始まります。】

【超拙意訳：桀溺の言を子路が、孔子に報告しました。それを聞いて、先生は憮然として言われました。「まったく、世の中、時代、人間からも逃げて生活できる鳥や獣たちのようにといわれてもなあ…。私が人間の仲間と離れて誰と一緒にいるというのだろうか。もし、この世の中（天下）が、道理のある世界ならば、私はそれを改革しようなどとは思ってもいないよ】

【補注：船着き場のありかを聞いただけなのに、「あり得ない」といいたくなるような、逆襲問答を受け、まいった孔子のようすが目に浮かびます。】

★ Personal Computer と Software について - 9 -

◆ ワードプロセッサ (WP) について

OpenOffice (OpOf と略記。 <http://www.openoffice.org>) の5回目です。当該ルビ対象文字の配置については、前号で既述しました。当該対象文字列のルビ付けの位置は、上か下に付けられます。

当該対象文字列に対して、ルビを振る際にも、「読み（ふりがな）」だけでなく、いろいろな意味のものを付けることができます。ある意味で表現の幅が広がります。たとえば、ルビ対象文字列は、中央卸売市場とします。この当該文字の上（下）に、築地と漢字を

振ってもよし、Tokyo Wholesale Market とルビを振ってもいいのです。また、東京都中央区築地5-2と住所をルビとして振ってもいいのです。ルビ対象文字1字に、ルビ文字数は、128文字でも256文字でもいけるようです（何文字可なのかは数えていない、乞許）。ルビ用の文字スタイル（Alt + O + I → Alt + I）は、たいへん豊富で26種もあります（これは数えました）。通常は、文字スタイルとして「ふりがな」を選択しています。これだけでも十分なのですが、他にも次のようなスタイルがあります。インターネットリンク、プレースホルダー（たぶん、placeholders だと思いますが）、引用、索引ジャンプ、索引の主項目、文末脚注番号、文末脚注参照記号、Zeichenformat (Zeichen は、ドイツ語の符号・目印・標識などの意味でしょうか)、ページ番号、ソーステキスト、ドロップキャップ（洋書で見かけるパラグラフごとの見出し的な大文字）、脚注参照記号、脚注番号、強調、行番号付け、図表番号文字、定義、等幅フォント、などがあります。

当該ルビ対象文字列に、ルビを振り、文字スタイルに「強調」を選択すると、ルビ文字がイタリックになったり、「脚注参照記号」を選べばより小さなルビ文字になって振られます。

今回は、でき上がった原稿をメールで送付するやり方を紹介したいと思います。

★ Internet について (博物館海外編-New York 14-)

スプリング駅（6番街通り）で地下鉄を降り、Hudson 川方向に徒歩約5分の The New York City Fire Museum (<http://www.nycfiremuseum.org>) に行きました。

9.11の事件の際に、なくなった消防士・Firefighter (firemanではなく) の約400人の顔写真が、印象的でした。Fire Engine・消防自動車の変遷（人力、馬力、モーター）や防災訓練の体験もできます。入館料は、一般4ドルです。

N.Y.マンハッタンの原点である Lower Manhattan のイースト川側にある The New York City Police Museum (<http://www.nycpoliceuseum.org>) も楽しいところです。NYPDの警察官ユニフォームの変遷が展示されています。麻薬や貨幣偽造機も展示されています。入館料は、一般で5ドル、シニア3ドル、小中学生は2ドルです。（この項続く、乞ご期待）

洋書の歴史雑記帳〔XLIII〕ドイツ学術受容の歴史(6) 鈴木陽二

◆ドイツとの出会い (3)

日本における大砲の初期の様子について前回述べたが、火砲に関する洋書も盛んに輸入された。

ベニョフスキーによってロシア南進の警告がもたらされ、急速に海防論が高まった18世紀末ぐらいから洋式軍事に関する洋書が流入して来るようになり、特にペリーの来航以来の幕末にはかなりの数の兵書が輸入された。例えば、軍制の洋式化を進めていた鍋島藩は、洋書の収集にも力を注いだ。佐賀鍋島家蘭書目録を見ると、火砲に関するものだけでも66冊ほどを数える。火砲関係の洋書をこれほど大量に購入した藩が他にもあったかどうかは分からないが、しかし、西洋文化の摂取に積極的で、かつ洋式兵制の導入を進めていた諸藩は多かれ少なかれ洋書の購入に努めた。

諸藩で収集した火砲の洋書は蘭学者の間にも出回り、翻訳された。大槻如電『新撰洋学年表』で火砲関係の翻訳書と原著作を大ざっぱに数えたところ48点ほど見られたが、そのうち1839(天保10年)の「蛭社の獄」から1866(慶応2年)まで39点、海防意識が急速に高まったペリー来航(1853=嘉永6年)以降で24点を数える。幕末に向かっていかに国防に対する関心が強まって行ったかが理解できる。

翻訳はほとんど蘭書から行われたが、その中にはドイツ語原著のものが結構見られる。しかし、それはいわずれ述べることにして、今はケンペル以前の来日ドイツ人について続けることにしよう。

1646(正保3年)に来日したドイツのシュレスビヒ生まれのアンデルゼン(Jürgen Andersen)は1週間ほど滞在し、そのときの体験を紀行文に著した。この著作は、ドイツの著名なペルシャ文学者オレアリウス(Adam Olearius)の旅行記と合本になって、1696年ハンブルクで『東洋旅行記』が刊行された。この本は、現在東洋文庫が所蔵している。また後年、1930~32年にハーグの出版社ナイホフが刊行した叢書『オランダ東西印度会社勤務のドイツ官吏及び軍人の旅行記』13巻にも含まれているという。

出島のオランダ商館には、オランダ東インド会社によって商館付医師が配備された。1649(慶安2年)に来日したスハンベルヘン(Caspar Schambergen)はドイツの外科医で、オランダ遣日使節のフリシウスに

同伴して参府し、江戸滞在中に幕府の要請で医学(外科)を教授した。彼は1651(慶安4年)まで滞日したが、その間江戸と長崎で通詞の猪股伝兵衛や河口良庵、江戸で兵学の道場を開いていた山口三郎左衛門などに外科を伝習した。そして、彼らによって「加須波留(カスパル)流外科」として相伝されることになった。後年、良庵はカスパル流外科を最もよく伝える『阿蘭陀外療集』を著し、今も各地に写本が残っていると言う。スハンベルヘンが江戸滞在中に井上筑後守政重から彼が所有していたと同じ医書の注文を受け1654年に到着したが、それはヴェサリウス(Andreas Vesalius)の解剖書“De corporis humani fabricae.”(1543)だった。筑後守は大目付としてキリシタン弾圧に辣腕を振り、平戸のオランダ商館を長崎出島に強制移転するなど、鎖国制度を固めた中心人物だった。しかし一方で西洋先進文化の受容に積極的で、洋書や地図類、医療器具などを購入した。彼はスハンベルヘンに見せられた解剖書に興味を引かれて購入すると同時に、その解剖図に触発されて1660(万治3年)には猪を解剖させた。人間ではないが、これが記録に残る日本で最初の解剖だったという。ヴェサリウスは説明するまでもなくベルギーの解剖学・外科学者で、近代解剖学の基礎を築いた偉大な医学者だった。この頃、幕府の高官の間では西洋文化への関心が高くそれぞれ洋書を手に入れたが、筑後守は他にもフランス外科学の泰斗パレ(Ambroise Paré)の外科学書のオランダ語訳1649年版、蘭学書の中で余りにも有名な植物学書『ドドネウス草木誌』、17世紀オランダの代表的な地図制作者ブラウ(Joan Blaeu)の大世界図などを入手した。この世界地図は1648年オランダと推定され、後年、新井白石がシドッチの尋問に使用し、著書『采覧異言』(1713=正徳3年)に転用した。現在東京国立博物館で所蔵しているのが、当時から伝わった現物と考えられている。また、老中の稲葉美濃守正則もスピーヘル(Adriaen van den Spiegel)の解剖書“Opera quae exant Omnia”(1646)、またレメリンの解剖書、植物学書などを入手している。〔参考文献：宮永孝『日独文化人物交流史』／鈴木重貞『ドイツ語の伝来』／酒井シヅ『日本の医療史』／山脇悌二郎『長崎のオランダ商館』(元丸善・本の図書館長)

英国学士院／オックスフォード大学出版局後援
オックスフォード大学研究プロジェクト

オックスフォード英国大人名辞典 全60巻 Oxford Dictionary of National Biography

The Founding Editor: the Late H.C.G. Matthew
The Editor: Brian Harrison

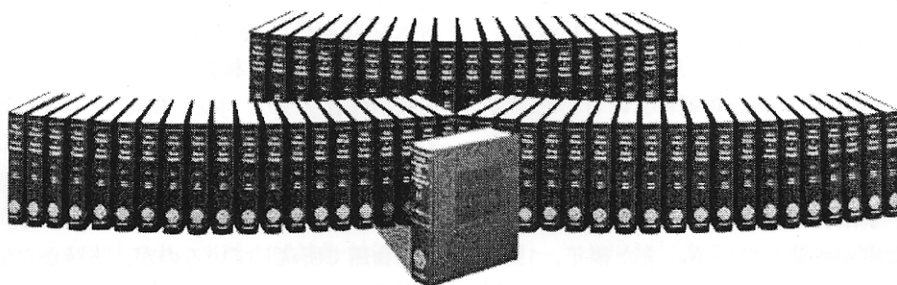
2004.09. 60 Vols. <注文番号 MBN 0200000> 特価 (初回入荷分に限定) ¥1,659,000 (税込)

英国は多くのすぐれた伝記文学を生み出した国として知られていますが、英国史における著名な人物、後世に記録を残すに値すると思われる人物について、出来得る限り多くの評伝を一つの出版物として世に出そうとの企画が今から 100 年以上も前、ある人物によって始められました。言うまでもなく、Leslie Stephen の Dictionary of National Biography です。この一大出版事業は、1884 年から 1901 年、ヴィクトリア女王が逝去する年まで続けられました。その後 1920 年から補遺の刊行が始まり、つい 10 年ほど前まで新しい人物の情報を追加してきました。約 100 年間に及ぶその歴史の中で取り上げられた人物は合計 36,500 人に上ります。Oxford English Dictionary, Encyclopaedia Britannica と並ぶ英国出版文化史の傑作と言えます。

この Dictionary of National Biography(DNB)が今年、120 年振りに改訂されます。全 60 巻、収録人名数 50,000 人、現行の DNB に収録されている人物に新たに 13,500 人を加えました。また、現行版に収録されている人物についても、過去 100 年間に新しく発見された事実を下に書き換えがなされている徹底振りです。さらに、特筆すべきは、現行版にない特徴として、National Portrait Gallery の肖像画、写真等を 5 人に 1 人の割合で、当該人物の紹介記事の横に掲載するという事です。その他、印刷体の刊行と同時にオンライン版も計画されています。

実は DNB の改訂は数十年も前から幾度も構想されていましたが、その都度頓挫していました。それが、DNB のアメリカ版がニューヨークにあるオックスフォード大学出版局から刊行されることが 1990 年代初め正式に決まったことが追い風となり、本家本元のイギリスでも、政府の教育科学省、英国学士院の後押しもあって、ようやく正式に改訂版の刊行へ向けた企画が着手されることとなりました。構想段階も含めれば 20 年近い出版企画とされています。すべての図書館、すべての研究者、すべての読書人にお薦め申し上げます。

(Oxford U.P., GBR / 日本総代理店: 丸善)



- 原価改定、為替相場の変動等の理由により、価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文は弊社本・支店営業部(課)までお申し付けください。

M丸善

<http://www.maruzen.co.jp/>

【本社・日本橋店】〒103-8245 東京都中央区日本橋2-3-10 TEL: (03)3272-7211 振替: 00170-5-5
首都圏店舗=お茶の水・赤坂・新宿・府中・立川・北千住・津田沼・舞浜・柏支店
店舗・営業所=千葉・八王子・さいたま/札幌・盛岡・仙台・新潟・横浜・静岡・浜松・名古屋・岐阜・
金沢・京都・大阪・神戸・姫路・岡山・松山・広島・福岡・長崎・鹿児島・沖縄/ニュージャージー・
ロンドン